



◀ナイスさんかく

誰もが自分らしく過ごしていける社会に

LGBTQを始めとする性的マイノリティ(少数者)は、約10人に一人とされています。単純に「女性」、「男性」に分けられない私たちの「性」。その多様性を個性として、認め合うことが大切です。

お問い合わせは
男女共同参画センター
☎485-7088へ

好きな服を着たいと思っいても

「自分が着たい服を着たい」、「好きな人と一緒にいたい」…。LGBTQを始めとする性的マイノリティ(少数者)は、社会の偏見などによって、様々な思いがかなえにくい状況にあります。「生まれたときの性別に違和感がない」、「好きになるのは異性」…。それが当たり前とされる中で、子どものころから「自分は変なのではないか」と悩んでいたり、誰にも言うことができずに孤立している人々もいます。

●自分の性別等に違和感を持ち始めた時期は自分の性的指向に気づいた年齢は13~14歳が最も多く、性別に対する違和感を持ち始めた時期は小学校就学前という人が56.6%との調査結果があります。また、小中高校生活の中でのいじめ被害経験率は58.2%との報告もあります。

様々な困難を感じている人がいます

「自分の周りには性的マイノリティはいない」と思っている人は少なくありません。性的マイノリティは約10人に一人いると言われています。身近に「いない」のではなく、「見えていない」のかもしれませんが。学校や職場などの身近なところで生きづらさや困難を感じている人たちがいます。

●学校で ▶「おかま」、「気持ち悪い」などと言われて傷ついた ▶先生に打ち明けたのに、理解してもらえなかった ▶男女別の更衣室やトイレが使いづらかった ▶自認する性ではない制服を着るのが嫌だった

●職場で ▶カミングアウトをしたら内定を取り消された ▶上司や人事担当者に打ち明けたら、ほかの人に勝手にアウトイングされた ▶同性のパートナーが家族として認められず、手当や休暇などを利用できなかった

●日常生活で ▶何度も書類と見比べられ、窓口に行きづらくなった ▶パートナーが入

性は主に4つの要素で構成されています

私たちの性は、主に4つの要素で構成されています。その性のあり方は段階的に色が変わる様子に例えられ、グラデーション

とも言われています。

人によって、捉え方に差があり、組み合わせも様々。その違いが性の多様性です。



心の性(性自認)

自分が認識している性。身体の性と心の性が一致しない人や男女のどちらでもないと感じる人もいます。



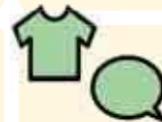
好きになる性(性的指向)

魅力を感じる相手の性。同性や複数の性にひかれる人、いずれの性にもひかれない人もいます。



身体の性

生まれたときの生物学的な性。男女のどちらかに分けられるのではなく、一人ひとりに多様な発達が見られます。



表現する性

言葉遣いやしぐさ、担いたい役割など、自分を表現する性。ファッションやメイクなど表現方法は様々です。

院したが、家族と認められず、治療内容の説明等が受けられなかった ▶同性カップルであることを理由に、賃貸住宅への入居を断られた

できることから始めよう

性的マイノリティの課題を理解し、支援する人をAllyといいます。身近な人を傷つけないためにも、性の多様性について知り、それぞれの性のあり方の違いを尊重していくこと、誰もが自分らしく過ごせるよう、性別などに関係なく、個性や能力を発揮できる環境を作っていくことが大切です。

●まずは第一歩。日常生活を見直してみよう ▶多様な性に関する正しい知識を身に付ける ▶ほかの人の性を決めつけない ▶「男らしさ」、「女らしさ」を無理に押し付けない ▶身近に当事者や関係者がいるかもしれないと思って行動する ▶性に関することでいじめたり、笑いのネタにしない

●性別を強調する表現などにも気をつけよう
①性別や関係性を決めつけるような表現は言い換えてみましょう。▶彼女・彼氏、夫・妻→恋人、パートナー ▶息子さん・娘さん→1番目のお子さん、2番目のお子さん
②性的マイノリティの皆さんが不快に思うような言葉を使うのはやめましょう。▶ホモ、レズ、おなべ、おかま、あっち系など



▶LGBTQ Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, QueerまたはQuestioning

の頭文字をとった言葉。性的マイノリティの総称としても使われます ▶カミングアウト 自分の性自認や性的指向を打ち明けること ▶アウトイング 本人の了解を得ずに、他者に性自認や性的指向などを伝えること。絶対に行ってはけません

広告

広告